

海山これしかないやん！

究極の二択から、釣り歴30年



序章

ある日突然、FAXによる執筆依頼(驚)。本市HP内でのアチキの書き込みを見て、「おもしろい文章を書く」って思ったらしい。実はアチキ、市のHPをジャック中。観光振興という名目のもと「釣りガールに捧げる」という、とても行政では考えられないブログ方式での書き込みを実施中。上司がこれやから、部下まで調子こいて「ヤマガール」なるものを掲載中。市長も読んでもみたいやし、怒らんのやから承諾済みと勝手に解釈(イヨツ、市長、心広いでえ)。そんなことはどうでもエエことやけど、「はてさて、どないしよか?」と考えながら、参考のためバックナンバーを見ると、皆さん経歴も凄いいし、よくまとまった文章を書いているじゃないですか。いくら厚顔のアチ

キでも、さすがに出る幕ではございませぬ。

「丁重にお断りするしかないやん」と恐る恐る電話をかけると、不運なことに担当の方が一枚も二枚も上手。田舎者のアチキなどが簡単に手玉に取られ、うまいこと言いくるめられ、結局、受ける羽目に…。鈍い頭から湯気の出る思いで原稿を書いとりますが、遅々として進まん(疲れるわあ)。



回想

思い起こせば30年も昔のこと。大阪で4年間の学生生活を送り、なんとか郷里へ就職。とりあえず(?) 仕事は一生懸命やるとして、余暇をどのように過ごそうか? 「さて、何があるんかいな?」と改めて周りの環境を見廻すと、「ガビーン」。何ちゃなにがな。せっかく身に着けた都会的センス



豊島 智

香川県三豊市政策部産業政策課

【とよしま さとし】1959年香川県三豊市(旧三豊郡高瀬町)生まれ。1982年4月高瀬町役場入庁。2006年1月、合併により三豊市に。2012年4月より現職。瀬戸内海(荘内半島)をフィールドにフィッシング。現在は釣りに行く時間が無いのが悩みのタネ



釣れもせんのにカッコつけて

を發揮するところなど皆無ですわ。郷里は香川県(今は、うどん県の方が有名?)の西部にあるちっぽけな町。背面に

1人寂しく
タイタニックポーズ



緑あふれる山並み、前面には青い海。文章だけ読めば、「自然豊かなエエ所やん」と思えてますやろ。けど、あるのはこれだけ。これ以上、これ以下でもなし、典型的田舎町の真っ只中に置いてきぼり。へこむわあ、はてさて何して時間つぶそか？ 貧乏なため、金のかかる趣味など持てへんし…。いろいろ悩んだ末に仕方なく出した結論が、「海で遊ぶしかないわ！」

今でこそ平成の大合併により、海が存在する市に住んでますが、当時、アチキの住む町は海の無い山間の町。見渡せば田んぼ・畑・山のみ。緑は目に染みますが、青は見ることなし（なんとオーバーな）。海へのあこがれか、無い物ねだりか、海を選択するのが自然の流れやったと。家からわずか15分も車で走れば、恵み豊かな瀬戸内海。とりあえずここで遊ぶしかないわ。まあ、夢はでつかく、将来はクルーザーでも買って、マリンスポーツ&フィッシング三昧。と思うとりましたが、夢は夢のまま終わりそうです。



無我夢中

やると決めれば、後は行動に移すのみ。実行計画の基本は「小さなことからコツコツと」。まずは初任給をもらおうとすぐに、安物の竿とリールを購入。休日のたびにせつせと海（荘内半島）へ出かけます。といっても釣り方やポイントもわからない超初心者やから、餌をつけて海面に投入するのみ。しかあゝし、アチキの抜群のセンス？ はたまた瀬戸内の海のご慈愛？ ど素人のアチキでも、簡単に魚を釣り上げることが…。ビギナーズ・ラックそのもの。よくよく考えると、4月、5月は釣りのベストシーズン。魚種も増えるし、餌の捕食も活発になる時期。最高の時期に始めたのやから、釣れて当然。



紆余曲折

お目出度野郎の勘違いやったけど、やっぱり魚は釣れなあきまへん。釣ればメチャ楽しいし、以降深みにドップリとはまってしまう羽目に。そんなこんなで母なる瀬戸内海には、30年ほどお世話になってます（感謝）。

独り身の時は、思いついたらすぐに海に向かってGO！ 誰に遠慮することもなく、思いつくまま、気の向くまま釣りを楽しんでました。しかし、結婚・子供の誕生とアチキにとって人生の変化点を過ぎると、自由な状況が一変。妻（これが難敵）の強烈



スボラ釣りの極致ですわ



な抵抗を受け、容易に釣行の許可が出ないのが悩みのタネに。

比較的、許認可の受けやすい時間はと言えば、家族が寝静まった深夜から。もともと夜型人間のアチキ。深みにはまってたこともあるけど、「睡眠時間を削ってでも行つたるわい」とせっせと夜釣りに向かいます。ここでも抜群のセンス(?)を發揮して、ボッコボッコと魚を釣り上げましたでえ(瀬戸内の海って豊かでしょ)。

そんな深夜釣行を繰り返すたびに、新たな悩みが出現。実は、餌の購入にメチャ苦勞してたんです。早いうちに餌を

買って、一日家へ帰り、家族が寝静まるのを待って出かけることの繰り返し。さすがに疲れますがな。夜遅くに開いている釣具屋なんてあらしまへん。背に腹はかえられぬ(何か使い方違うぞ)。導き出した結論が、ルアーフィッシング。これなら思いついた時に、いつでも行くことできるやん。



唯我独尊

と、安易な気持ちでやり始めたのですが……。ここで、釣り人生初めての挫折を経験。隣の人がドンドン釣り上げるのに、アチキの竿にはアタリすら無いやん。道具も場所もほとんど同じ、使ってるルアーにしても大差なし。なのに、何度釣行しても結果は同じ。明らかにアチキの下手さが原因かと。

天邪鬼あまのじやくやから、教えてもらうのは苦手。「よっしゃ、技を盗んだら」と、しばらくは釣行するたび一番上手そうな人に照準をあわせ、横目で見ながら真似の繰り返し。可愛い女性にマークされるのやったら嬉しいと思うけど、むさ苦しい男やから、付きまといわれた釣り人は、さぞ気持ち悪かったことかと。この場を借りてお詫び申し上げます。こんなことしながら、見事に基本をマスター。で、人とは変わったことをしたい本質を有するためか、元の形が何かかわからないほどアレンジしまくり。今に至っては、ルアーを使うのみで、仕掛けはシツチャカメツチャカ。でも釣れればエエんです。



ルーツ

「いきなり話が飛ぶんかい」って怒らんといてください。どうやら私の祖先は農耕民族ではなく、どつちかと言えば狩猟民族の側かと。家に少しばかりの農地を所有してますが、恥ずかしいことに、今の今まで農業経験は全く無し。そしてこれからもズツと(笑)。だつて性に合わないから。しかし釣りに行けば違いまつせ。釣り場に到着した瞬間から興奮状態。一気に血がフツフツと沸きあがるから不思議。これつてアチキに流れる血筋から。正式な家系図などは無いけど、瀬戸内の塩飽諸島しほくの出身と聞いたことが……。やっぱ、アチキは塩飽水軍の血が流れているやと勝手に納得してます。まあ、周りには口を揃えて、「そんなエエもんやない。倭寇の子孫。海賊や、海賊」と言い放ちますが。



山紫水明

偉そげに書き並べてきたんやけど、アチキは釣り名人とは程遠い人物。大した魚も釣つてないし、釣り道具などビックリするような安物使つてまつせ。ホンマは高い竿もほしいけど、財布の中身と相談すれば無理、無理、無理。当初思い描いていた豪華クルーザーなど夢のまた夢。けど、今になって思えば、釣りを始めるという決断は大正解でした。わが故郷の海



未知なるパワーの
宿る木（大楠：志々島）

は日本、いや世界に誇れる海やと思うとります。釣りのフィールドだけじゃなく、景観・生物等すべてをとつてみても最高。特に粟島あわしまの海ほたるの時期や潮の満ち引き、その他の好条件が揃った時は圧巻。砂浜を幻想的なライトブルーの光が埋め尽くし、この世のものとは思えないほどの美しさ。もうひとつお奨めなのが、志々島の大楠おほのす。樹齢1200年を超える大樹は、未知な

るパワーを秘めた島の守り神。新緑の時期、萌黄色の葉に覆われた巨大樹と、その向こうに広がる碧い海のコントラストは絶景。釣りを始めてなければ島へ渡る機会も無いし、わざわざ見るに行っただけか？「何も無い」から仕方がなく始めた釣りが、無機質なアチキの心に郷土愛を芽吹かせてくれました。また、長らく海に親しんでいると、環境の変化にも敏感に。いちばん顕著に感じるのが地球温暖化現象。釣りを始めた当初は、早春の荘内半島の磯はワカメでびっしり。ポイントに着くと、まずは邪魔なワカメを刈り取って、釣り場を作ることから。何故って、海面一面が覆われ、餌が海中に入っていない状態。そんな状況であったのが、今はと言えば、同じ場所でもワカメは深場にしか生えてません。温暖化により浅場の水温が上昇し、冷水域に生息するワカメの種が定着しづらくなったという人も。現実を見るにつけ、成る程と納得せざる得ない状況に。「この自然を守らないかん」とちよっぴり正義感も沸き起こります。



青い光のファンタジー（海ほたる：粟島）

終章：瀬戸内国際芸術祭

少しだけコマシヤルを。「海の復権」をテーマに、2010年に香川県で開催された瀬戸内国際芸術祭は、展示された芸術作品が島の特徴と相まって、多くの来場者に楽しんでもらえました。そして2013年、瀬戸内海が「希望の海」となることを目指し、本市粟島においても開催されることになりました。アートを見るもよし、島の自然にふれるもよし、もちろん釣りするのも自由。普段は絶対に味わえない「ゆつくりと流れる時間」をぜひ体験してください。「自信・信念・誇り」を持って、「エエところやでえ」と推薦しますから。